

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月28日実施)	総合評価(3月18日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	○複眼的多面的にも のを見て、深く思考 し、論理的で批評 力・判断力・洞察 力・行動力に富む生 徒を育む教育課程に 整備する。 ○高度で知的好奇心 を刺激する授業を教 員・生徒の相互で作 り上げるために、組 織的な授業改善を推 進する。 ○各教科及び総合的 な学習の時間の取組 みを通して、歴史文 化への造詣を深め、 また、課題設定・解 決力・表現力を育む。	①学力向上進学重 点校エントリー校 として具体的な評 価視点・水準を確 認し、さらなる効 果的なカリキュラ ムの研究を行う。 ②グローバル教育 研究推進校として 生徒に示した学習 計画・取組みの効 果的な実施を図 る。 ③2学期制の長所 を活かした年間行 事予定の見直しを 行ったが、教育課 程上の位置づけの 一層の改善を図 る。 ④組織的な授業改 善に係る年間計画 に基づき、全職員 が授業研究を実施 する。	①29年度入学生のカリキュ ラム及び「新しい学力向上 進学重点校」の示す指標に 基づいて、生徒の進路希望 を実現するために、効果的 な指導に取り組む。 ②全学年で取り組む英語資 格認定試験を通して、一層 の生徒の英語力向上を図 り、キャリア形成に資す る。 オーストラリア姉妹校交流 事業が、受け入れ家庭生徒 の経験を通して、さらなる グローバル教育の機会とな るよう工夫する。また、海 外語学研修事業への生徒の 参加を推進する。 ③より適切な年間行事予定 策定に向けて、継続的に行 事の見直しや検討を行う。 ④年間計画に基づき、職員 全体の共通理解のもとで 生徒にとってより良い授業 ができるよう組織として取 組む。	①アクティブラーニングに組 織的に取り組めたか。 他校参加型公開研究授業を効 果的に実施できたか。 生徒による授業評価の項目4 について満足できる結果にな ったか。 長期休業中に発展的な補習が 実施できたか。 ②英語資格認定試験に取り組 むことが、生徒の英語力の向 上に結びつき、キャリア形成 に役立ったか。 オーストラリア姉妹校交流事 業及び海外語学研修事業を効 果的なグローバル教育の機会 とすることができたか。 ③年間行事予定策定が効果的 に行えたか。 ④互観授業を効果的に実施で きたか。 アクティブラーニングに組織 的に取り組めたか。(再掲) 他校参加型公開研究授業を効 果的に実施できたか。(再 掲)	①主体的・対話的・深い学び について、各教科を中心とし て組織的に取り組むことがで きた。 他校参加型の公開研究授業で は他校の先生方4名を招き、 授業後に意見交換をして今後 の課題を校内で共有した。 生徒による授業評価の項目4 について、各教科2.45～3.44 ポイントの間となり、全教科 平均で3.05ポイントだった。 ②英語資格認定試験、オース トラリア姉妹校交流事業及び 海外語学研修事業により、異 文化理解・グローバルな社会 に対する関心が高まった生徒 の割合が65.1パーセントにの ぼった。 ③新しい行事等の配置を適切 に行い、適切な行事予定を作 成した。 ④互観授業を効果的に実施で きた。1人2回以上の互観機 会を設定し実行した。	①各教員の授業内の取組の 工夫をとりまとめ、さらに 次回以降の授業改善に生か していく。 他校参加型公開研究授業は 全体的に同時期に取り組ん でいるため来校者の確保に 課題がある。 ②カナダ語学研 修の英文レポー ト、各種スピー チコンテストへ の参加、センタ ー試験の英語の 点数などからグ ローバル教育推 進は成果が出て いる。 ④全県レベルの 教科研究会へ教 員の積極的な参 画が望まれる。 互観授業は、事 後の検討会にウ ェイトを置きた い。	①授業評価は全 体的にバランス が取れている。 項目4は、科目 の特性もあり一 律にとらえるこ とは避けたい。 ②カナダ語学研 修の英文レポー ト、各種スピー チコンテストへ の参加、センタ ー試験の英語の 点数などからグ ローバル教育推 進は成果が出て いる。 ④全県レベルの 教科研究会へ教 員の積極的な参 画が望まれる。 互観授業は、事 後の検討会にウ ェイトを置きた い。	①他校参加型の 公開研究授業で は他校の先生方 4名を招き、授 業後に意見交換 をして今後の課 題を校内で共有 した。 ②英語資格認定 試験、オースト ラリア姉妹校交 流事業及び海外 語学研修事業に より、異文化理 解・グローバル な社会に対する 関心が高まった。 ③行事の大幅な 見直しは概ね成 功といえる。 ④互観授業を効 果的に実施でき た。	①新学習指導 要領や新テス トに向け外部 講師による研 修会を実施す る。 ②姉妹校交流 に加え、海外 語学研修も継 続的に実施す る。 ③今後は定着 に向けて内容 を充実させて いく。 ④互観回数を さらに増やす とともに、事 後の検討会を 充実させる。
2 生徒指導・支 援	○社会性・協調性・ 体力・行動力・自己 管理能力や人権意識 を養うために多様な 経験をさせ、生徒が 意欲的・主体的に人 間形成を行うことが できる環境を整え る。 ○一人ひとりの個に 応じた支援を充実さ せる。	①生徒の自己有用 感を醸成する効果 的な学校行事の活 用を図る。 ②一人ひとりの生 徒状況を把握す るためにきめこま かな生徒情報の共 有化を図る。 ③生徒の人権意識 を高めるための効 果的な支援を行 う。 ④藤沢養護学校分 教室との交流を継 続的に行う。	①生徒一人ひとりが学校行 事における自己の役割を理 解し、創造力を発揮して取 組めるような支援方法の工 夫を図る。 ②課題を抱える生徒情報の 共有と組織的な支援を図 る。 ③SNSに関わるトラブルの 未然防止、LGBTへの理解等 人権を意識させる機会を設 定する。 ④授業や学校行事などを通 して、分教室と生徒間の交 流・理解が深まるように支 援する。	①学校行事の過程や終了後に 生徒たちの主体性・自己有用 感は高まったか。 ②生徒情報交換会、学年会を 通じて定期的な生徒情報の 共有が実施されたか。 ③生徒の人権意識を高める機 会を設定できたか。 ④分教室との交流を通して生 徒間の協力関係が築けたか。	①「今も未来もあきらめない ー私たちは自分の手で未来を つかむー」という本校のキャ ッチフレーズを全生徒が積極 的に受け止め、主体性・自己 有用感を高めることに繋が った。 ②4月当初の生徒情報交換会や 毎週行われる学年会、生活指 導グループ会議において情報 の交換を行い、生徒に関する 情報を共有することができ た。 ③1年生を対象に4月に携帯電 話教室を実施し、SNSに関わ るトラブルの防止に努めるこ とができた。 4月および9月に各1週間、 登校時における江ノ電乗車指 導を近隣高校の職員と連携し て実施した。10月に3日間通 学路指導を計画したが、悪天 候のため1日だけの実施とな った。 ④学校行事・生徒会活動など を通して、分教室との交流が 深まり、生徒間の相互理解が 進んだ。	①生徒が学校行事に対し て、主体的に取り組む運 営することができるよう、継 続的に検討・指導して いく必要がある。 ②生徒情報の共有はきめこ まかい指導には欠くこと ができないものであり、今 後も継続して実行して いきたい。 ③SNSに関わるトラブルが 後をたたない状況であり、 携帯電話教室は今後も継 続して実施していく必要 がある。 乗車マナーや歩行マナーに 関しては他者への配慮を 欠くことのない深い人 権意識が求められるこ とを、全校集会、学 年集会及びHRを通 じて継続して指導して いきたい。 ④学校行事に限らず、授 業などにおいても生 徒間で交流できる機 会を模索する必要 がある。	①学年ごとの指 向や情報量の過 多に注意し、最 大効果が期待で きる時期(学年) に、異なる課 題の設定が望 まれる。 ②SCの来校回数 が少ない。 ③SNSに関わる トラブルや公共 マナーの対処は 「相手の立場を 考える」ことが 基本である。 鎌倉高校前駅周 辺の外国人観光 客とのトラブル が起きないように 留意してほしい。 暗くなってから 帰宅を急ぎ、駅 に向かって走 ると歩行者にと って危険である。	①生徒主体の行 事運営に向けて すでに取り組 み始めた。 ②生徒情報交換 会や学年会など において情報交 換を行い、生徒 情報の共有に努 めた。 ③携帯電話教室 を実施している が、SNSに関わ るトラブルはな くなってはいな い。 ④学校行事・生 徒会活動などを 通して、分教室 との交流が深ま っているが、さ らに交流できる 機会を模索する 必要がある。	①生徒主体の 行事運営の取 組の検討・指 導を今後も継 続する。 ②情報共有に とどまらず、 具体的な支援 を考える会に 発展させる。 ③人権意識を 背景として、 SNSやマナー について考え させる機会を 作る。 ④学校行事に 限らず、「交流 及び共同学 習」について 分教室との連 携を進める。

3	進路指導・支援	○難関国公立大学・難関私立大学への合格者数を増加させる。	①生徒一人ひとりがグローバルな視点を持ち、自己実現に向けて高い目標を掲げ、最後まで挑戦を継続できるような支援体制を確立する。 ②総合的な学習の時間やLHRを効果的に活用するとともに、長期休業期間中の時間を活用したきめ細やかなキャリア支援体制を構築する。	①生徒自身に将来の夢を実現していくためのショートゴールを設定させ、定期的に達成度を確認できる仕組みを作る。 ②総合的な学習の時間やLHRを利用し、適切な進路選択ができるよう情報提供を行っていく。 ②長期休業中においては、講習会を設定し、生徒の到達度に応じた学習環境を構築する。	①模擬試験を各学年効果的に設定し、関連する講演会等を企画することができたか。 ①生徒の意欲向上につながるデータ活用が、円滑にできる環境を整えることができたか。 ①進路支援室や自習室等を整備し、生徒の学習環境を整えられたか。 ①適切な進路選択に繋がる継続的な支援ができたか。 ②長期休業中における講習等が適切に設定されたか。	①模擬試験を各学年3回ずつ実施した。 ①模擬試験と関連させて講演会を実施し、最新の受験データに照らした意欲喚起のための機会とした。 ①自習室を利用する生徒が増えたため、自習机を約2倍に増やすなど、放課後勉強できる環境を整えた。 ①受験を間近に控えた生徒が、気軽に立ち寄れるよう、進路支援室の開所時間を昼30分の他、放課後30分にも設け、きめ細かに指導した。 ②長期休業期間中には、センター試験の疑似体験をさせる演習等を行った。	①講演会の実施等により、一時的な学習意欲向上の目的は果たせたが、継続した学習習慣に繋がっておらず、今後さらなる工夫が必要である。 ①難関大学に挑戦する意識について全体としては不十分な面があり、国公立大を目指す生徒は、学年が上がるにつれて減る傾向がある。 ②長期休業中においては周到に計画を立てさせ、生徒自身に進路を見据えた準備ができるよう、部活動等との両立を実現させる。	①模擬試験やセンター試験対策などきめ細かい進路指導は評価できる。 多種多様な進路情報から、安直な方向に流れないよう指導した。 ①センター試験の理系基礎科目の得点の低さについて、入学直後から取組が必要である。 ①放課後30分では短かいのではないか。	①講演会の実施等により、一時的な学習意欲向上の目的は果たせたが、継続した学習習慣に繋がっていない。 ①難関大学に挑戦する意識の醸成は不十分である。 ①進路支援室や自習室等を整備し、生徒の学習環境を整えた。 ②長期休業中の講習会を設定したが、さらに受講者数を増やしたい。	①継続的な学習意欲向上に向けて、さらなる方策を検討する。 ①難関大学、国公立大学進学の意味を強調した指導を行う。 ②長期休業中においては周到に計画を立てさせ、生徒自身が進路を見据えた準備ができるよう、部活動等との両立を実現させる。
4	地域等との協働	○保護者・地域・大学・分教室との連携・協働による教育を推進する。	①地域・保護者等と連携した生徒主体の活動を支援する。 ②地域に理解される貢献活動を実施する。 ③「かまくら学」やキャリア教育等において、生徒の進路希望に則した高大連携を進める。 ④藤沢養護学校分教室との交流を継続的に行う。(再掲)	①「かまくら学」を軸にした地域との協働による体験活動のさらなる充実と生徒のプレゼンテーション能力の向上を目指す。 ②地域との連携を図り、環境に配慮した地域貢献活動を実施する。 ③「かまくら学」やキャリア教育の成果を生かせる高大連携のあり方を模索する。 ④授業や学校行事などを通して、分教室と生徒間の交流・理解が深まるように支援する。(再掲)	①生徒の積極参加を促す地域との協働メニュー提示が効果的になされたか。 ②地域と連携し、海岸清掃など環境に配慮した活動を実施できたか。 ③本校の連携先としてふさわしい大学を見いだすことができたか。 ④分教室との交流を通して生徒間の協力関係が築けたか。(再掲)	①「かまくら学」の一環として1年生全員が「協働メニュー」に参加し、地域と交流することで市民活動について学ぶ機会を設けることができた。 ②学年ごとに地域貢献デーを実施し、地域と連携して海岸清掃および近隣地域の公園や道路の清掃を実施した。 ③本校の連携先としてふさわしい大学を見いだすことが難しかった。 ④学校行事・生徒会活動などを通して、分教室との交流が深まり、生徒間の相互理解が進んだ。(再掲)	①学校全体の取り組みとして、「協働メニュー」について、職員全体の理解と協力がなければならない。 ②環境に関する関係団体との連携をとりながら、今後も学校周辺の清掃を行い、環境の整備を行っていききたい。 ③本校の連携先としてふさわしい大学を見いだすことが難しい。 ④学校行事に限らず、授業などにおいても生徒間で交流できる機会を模索する必要がある。(再掲)	①学校全体で「かまくら学」に取り組んでいることは、地元住民として誇り高い。 ②地域防災の取組に引き続き協力してほしい。	①1年生全員が地域と交流することで市民活動について学ぶ機会を設けることができた。 ②地域と連携して海岸清掃および近隣地域の公園や道路の清掃を実施した。 ③連携大学を見いだすことが難しかった。 ④さらに交流の機会を模索する必要がある。	①持続可能な形態で、今後も地域との協働を進める。 ②環境に関する関係団体との連携をとりながら、今後も環境の整備を進める。 ③連携内容を精査し、今後も模索する。 ④「交流及び共同学習」について分教室との連携を進める。
5	学校管理 学校運営	○すべての職員が一丸となって学校改革に臨み、魅力ある学校づくりに組織的に取り組む。	①事故不祥事に関する情報の共有化・校内研修体制の充実を図ることによって、事故・不祥事0件の継続を目指す。 ②学校目標を共有し、その達成に向けて学年・グループが協同して取り組む体制を構築する。 ③生徒・保護者の安全安心を図り、必要な環境整備に努める。 ④職員・生徒が一体となって災害に強い学校づくりを行う。 ⑤ホームページで最新の学校の情報を発信する。	①効果的な研修会を実施する。 グループを主体とした事故防止会議の計画的な実施を図る。 私費会計の適正な執行を図る。 ②学年・グループ・教科等で学校目標達成を意識した会議時間を確保するなど情報の共有化を図る。 ③校内の施設をチェックし、環境整備に努める。 ④様々な状況を想定した避難訓練、DIG訓練等を実施する。 活用しやすい防災マニュアルの見直しと職員・生徒への共有化を図る。 ⑤迅速で魅力ある情報発信に努める。	①時宜に適した効果的な研修会が開けたか。 定期的な点検方法が構築できたか。 各グループが主体的に事故防止会議を実施したか。 私費会計の執行が適正に実施されたか。 ②定例の学年会・グループ会議・教科会議において定期的に学校目標達成に向けての情報共有はできたか。 ③校内の環境整備を行うことができたか。 ④避難訓練、DIG訓練を実施し、安全への意識を高め、帰宅グループ、帰宅経路等の確認ができたか。 ⑤時宜に応じた情報更新と魅力ある情報発信が実施されたか。	①月に一度程度、事故不祥事に関する研修を行うことができた。 ②特にグループ会議・教科会議において学校目標達成に向けての情報共有ができた。 ③必要な環境整備を行うことができた。 ④避難訓練、DIG訓練を実施し、安全への意識を高め、帰宅グループ、帰宅経路等の確認をすることができた。 ⑤ホームページでは時宜に応じた素早い情報発信ができた。	①より実効性のある研修会を実施していきたい。 ②各会議等で学校目標を共有、確認するための会議時間の確保。 ③予算の制約がある中で、有効な環境整備を行っていききたい。 ④より充実し実効性のある、避難訓練、DIG訓練を実施していきたい。 ⑤ホームページの運用に関する専門的な職員の確保。	③地域内での外国人観光客の増加や道路状況の変更などの環境変化に対応した防犯・交通安全では、地域との連携が必要である。 ⑤ホームページは、鎌高のアピールポイントが分かるものになっている。 ⑤頻繁な更新が重要である。閲覧対象は、在校生家庭、受検する中学生を意識した内容に特化させるとよい。	①グループを主体として、事故不祥事に関する研修を行うことができた。 ②グループ会議・教科会議等において学校目標達成に向けての情報共有ができたが、会議時間の確保が課題。 ③教室に余裕のない中、学級増に伴う教室配置に苦慮した。 ④避難訓練、DIG訓練等を実施し、安全への意識を高めた。 ⑤ホームページでは時宜に応じた情報発信ができた。	①定例の事故不祥事防止の研修に加え、専門家を講師とする研修を実施する。 ②学校目標達成を意識した会議運営を進める。 ③将来的な教室配置について、適切な見直しを立てる。 ④より実効性のある訓練を実施する。 ⑤今後も時宜に応じた情報発信に努める。